




Re

since that day



----たぶん一目惚れだったと思う。とても硬くて、まだ「まさら」だった僕は、その時すでに君とずっと一緒にいることを感じていた。-----「直感」だけど「確信」めいた予感-----

「はじめて会った気がしない」。ありきたりの言葉だけど-----それが一番しっくりきた。伝えるすべは無かったけど-----

だから、うれしかった。

君に選ばれて-----


-----ふたりの時間を重ねるほどに、硬さは少しずつほぐれて、
いつしか自然に君とぴったり合うようになって、一緒にいることが当たり前になって-----。

-----君と一緒に過ごす時間は減っていき
別れのときが来ることを感じはじめて-----
-----いた-----


--それでも君は僕を捨てはしなかったんだ-----
僕がまた堂々と自分を誇れるように-----

僕は少しずつ色あせて-----
はじめに-----会ったとき
の、あの自信に満ちた自分で
はいられなくなって-----。

僕が僕でいられる場所に-----
！旅立たせてくれたっけ！-----



君と過ごした時間が僕を強くしてくれたんだと思う。
君と出会ったことで僕は変わったんだと思う。自分の個性を受け入れて、-----
-----自分らしく生きてくってことに。



次に会うときは、
お互いもう気づかないだろう。
心のままに、
君が欲しいと思ったデニムを
手に取って。
それがきっと僕じゃないかと思
うんだ。

2020年10月
WE ♥ DENIM 開催(予定)